

地球温暖化対策計画書

1 地球温暖化対策事業者の概要

地球温暖化対策事業者 （届出者）の名称	成瀬酸素運輸株式会社
地球温暖化対策事業者 （届出者）の住所	愛知県名古屋昭和区松風町2丁目10番地の10番地の1
工場等の名称	成瀬酸素運輸株式会社 大高営業所
工場等の所在地	愛知県名古屋市緑区大根山2丁目104番地
業種	運輸業、郵便業
業務部門における 建築物の主たる用途	事務所
建築物の所有形態	賃貸ビル等（賃貸している建築物）
事業の概要	一般貨物自動車運送事業（高压ガス輸送業務と輸送車両の整備）
計画期間	令和4年4月1日 ～ 令和7年3月31日

2 地球温暖化対策計画書の公表方法等

公表期間	令和4年5月24日 ～ 令和7年3月31日		
公表方法	○	揭示 閲覧	（場所） 大高営業所 1階事務所
		ホーム ページ	（HPアドレス）
		冊子	（冊子名・ 入手方法）
		その他	（その他詳細）
公表に係る問合せ先	052-841-6101		

3 地球温暖化対策の推進に関する方針及び推進体制

(1) 地球温暖化対策の推進に関する方針

当社は地球温暖化対策が人類共通の最重要課題の1つであることを認識し、事業活動のあらゆる分野を通じてサステナブルな社会の実現に貢献します。

- ①環境関連法規の遵守
- ②環境負荷の低減に貢献できる物流活動の推進
- ③エコドライブの徹底による燃料の節約
- ④アイドリングストップ運動の実施による燃料の節約
- ⑤安全運転による燃料の節約
- ⑥配車の適正化による燃料の節約
- ⑦最新排出ガス規制適合車への代替

(2) 地球温暖化対策の推進体制

環境方針ならびに環境管理体制を制定し、営業所所長を中心に、環境責任者、エコドライブ推進員、点検整備管理推進員を任命し、環境意識を高める環境教育を行う。

4 温室効果ガスの排出の状況

基準年度（令和 3 年度）の温室効果ガス排出の状況

①エネルギー起源二酸化炭素の排出量		2,879	t-CO ₂
①を （温室効果ガス 換算） ②を除く	②非エネルギー起源二酸化炭素（③を除く。）		t-CO ₂
	③廃棄物の原燃料使用に伴う非エネルギー起源二酸化炭素		t-CO ₂
	④メタン		t-CO ₂
	⑤一酸化二窒素		t-CO ₂
	⑥ハイドロフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑦パーフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑧六フッ化硫黄		t-CO ₂
	⑨三フッ化窒素		t-CO ₂
	⑩エネルギー起源二酸化炭素（発電所等配分前）		t-CO ₂
温室効果ガス総排出量（①～⑩合計）		2,879	t-CO ₂

5 温室効果ガス排出量の抑制に係る目標

（1）温室効果ガス排出量の抑制目標

温室効果ガスの抑制の目標設定方法	総排出量
------------------	------

項 目	基準年度 令和 3 年度 排出量（実績）		目標年度		令和 6 年度	
			目標排出量		目標削減率	
温室効果ガス 総排出量	2,879	t-CO ₂	2,864	t-CO ₂	0.5	%

項 目	基準年度 令和 3 年度 排出量（実績）		目標年度		令和 6 年度	
			目標排出量		目標削減率	
原単位あたりの 排出量		CO ₂		CO ₂		%

（2）目標設定の考え方

温室効果ガスを3年間で0.5%削減します。大半を占める燃料使用量（軽油・貨物自動車）の削減については、下記要因により変化するため、目標率を低くしてあります。
①連続再生式DPFや尿素SCR触媒の作動状況により、燃費が向上するか悪化するかが不明であるため
②乗務員のエコドライブ意識がすでに徹底されていて、これ以上顕著な燃費の向上は見込めないため
③一方、運輸業務の受注状況により、燃費が向上することがあるため

備考1 温室効果ガスの排出の状況のうち、エネルギー起源二酸化炭素を除く温室効果ガスの排出量については、温室効果ガスの種類ごとに3,000トン以上の場合に限り計上してください。

備考2 温室効果ガス総排出量とは、エネルギー起源二酸化炭素の排出量と、種類ごとに3,000トン以上の温室効果ガスの排出量の合算をいいます。

備考3 原単位あたりの排出量とは、事業活動の特性を的確に示すものとして事業者自らが選択する工場等の床面積、製品の出荷量その他の指標になる単位量あたりの温室効果ガス排出量をいいます。

6 温室効果ガスの排出の抑制に係る措置

(1) 自らの事業活動に伴い排出される温室効果ガスの抑制に係る措置

取組の区分	具体的な取組の内容	取組の目標
自動車輸送機関に関する対策	エコドライブの徹底	デジタルタコグラフでの急加減速等評価（点数）の集計により、全乗務員が100点の運転をできるように指導する
	最新規制適合車の導入	計画的な車両更新のため、3年間で合計12台以上の購入を計画
	配車の適正化	新しい配車支援型デジタルタコグラフの導入により、さらに効率化を図ることで結果的に燃料の使用量が減るようにする
省エネルギー、省資源の行動実践	冷房温度、暖房温度を適正にし、クールビズやウォームビズを心がける	こまめなエアコンON-OFF
	使用していない部屋・昼休み・時間外に、不必要な照明の消灯を徹底する	こまめな電源ON-OFF
	パソコンを長時間使用しないときは、電源を切る	こまめな電源ON-OFF

指針第1号様式

(2) 再生可能エネルギー及び未利用エネルギーの利用

ア これまでに実施している再生可能エネルギー及び未利用エネルギーの利用

導入年度	設備等の種類	概要（規模、性能、発生エネルギー量等）

イ 計画期間における再生可能エネルギー及び未利用エネルギーの利用

--

(3) 環境価値（クレジット等）の活用

--

(4) その他の地球温暖化対策に係る措置

グリーン経営認証の更新（今年度14回目）

--

(5) 「環境保全の日」等に特に推進すべき取組

--